２　重点《歴史文化保存活用区域》

（１）重点《歴史文化保存活用区域》の設定の考え方

重点《歴史文化保存活用区域》とは、多種多様な文化財（指定・未指定を問わず）が、特定の区域に集まっている場合に、その価値と関連する周辺環境も含め、文化的な空間を創出するためのエリアである。重点《歴史文化保存活用区域》を設定するにあたっては、以下の点を基準とする。

ア）重点《歴史文化保存活用区域》の構成要素となるそれぞれの文化財が、地域内に群としてまとまり、一連のストーリーの中で保存活用に結び付けることができること。
イ）重点《歴史文化保存活用区域》を構成する文化財の中に現存する文化財を含むこと。
ウ）重点《歴史文化保存活用区域》の核となる文化財は、これまでに十分な調査、研究がなされ、その歴史性や価値を評価されていること。

（２）重点《歴史文化保存活用区域》の設定

第２章１（５）で示した６つの長浜市の歴史文化の特性に基づき、重点《関連文化財群》の分布密度と歴史的特性を考慮しつつ、個々の文化財だけでは理解しにくい新たな価値を発見するために、６つの重点《歴史文化保存活用区域》を設定した。

- エリア①　長浜城と城下町遺構
- エリア②　奥びわ湖の観音文化と村々の祈り
- エリア③　賤ケ岳城砦群と古戦場
- エリア④　菅浦・竹生島と水辺空間
- エリア⑤　菅並集落と丹生谷の山村生活
- エリア⑥　大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化

（３）重点《歴史文化保存活用区域》の内容

エリア①　長浜城と城下町遺構

長浜城は、やがて天下人になる羽柴（豊臣）秀吉が、初めて一国一城の主となった城郭である。また、その城下町は国内主要都市の多くが近世城下町が基であるなか、長浜は最古級の古さをもつ近世城下町で、秀吉時代の町割りが現存しているという魅力を持つ。江戸時代の町家の残りもよく、歴史を感じさせる町並みは、黒壁スクエアの現代的魅力を合わせ、人々をひきつける都市景観を現出している。

浅井氏の小谷落城後、天正２年（1574）頃から、織田信長の命を受けた羽柴秀吉は、長浜城の築城を始める。その築城にあたっては、周辺百姓らを動員し、領内の多くの住人が携

わったことがわかる。江戸時代に製作された「長浜町絵図」や、その後の城郭推定図・長浜町地籍図や発掘調査の成果により、長浜城本丸には南北10間・東西12間の天守台に天守が建っていたが、それは現在の長浜城歴史博物館の西北に位置する。この天守台及び長浜城歴史博物館付近が字「本丸」と呼ばれる主郭であった。

天守台の北には港が存在し、南は二の丸跡、東は家臣団屋敷があった三の丸跡と推定される。家臣団屋敷については、江戸時代の検地帳に、「守田屋敷」や「伊右衛門屋敷」という地名が見られる。特に「伊右衛門」は山内一豊の初期の通称名であるため、その屋敷跡と見ることが出来る。長浜城跡については、この他に太閤井戸の跡や石垣出土地などが見学出来る。

城下町の建設については、築城と同時に始まったと考えられる。最初に今浜村やその近郷村を主体として大手町・本町が成立し、ついで魚屋町・瀬田町・横浜町・北町が成立した。これらは、すべて城に対する縦町であった。その後、天正８年（1580）頃までに小谷城下などから伊部町・呉服町・箕浦町・神戸町などの横町を移し、城下町の中心部分が成立した。さらに、郡上片原町、知善院町などが造成されたと考えられる。

長浜の城下町の構造は、城郭に対して縦町が基本であり、この形は長浜城が初期の近世城下町であったことを示している。秀吉が長浜で始めた城下町プランは、やがて全国の大名の手本となり、各地に建設された城下町は長浜城下町を手本とするようになったと考えられる。現在の町割にも秀吉時代の面影は残り、近世城下町の発展を知るうえで、その価値は高いと言える。

また、江戸中期以降の文化財であるが、北国街道の最南端である稲荷町・十一町付近、それに西御堂前町から伊部町に連なる通称「ウラクロ」地域は、市街地においても町家の伝存状態がよい。

長浜現存最古の町家である四居家

■エリア①　長浜城と城下町遺構　主な構成文化財一覧

番号	文化財名	類型	指定	地域	所在地
1	長浜城跡	史跡	市指定	旧長浜	公園町
2	太閤井戸跡	史跡	未指定	旧長浜	公園町
3	長浜城石垣出土地	史跡	未指定	旧長浜	公園町
4	大通寺含山軒･蘭亭･本堂･広間	建造物	国指定	旧長浜	元浜町
5	大通寺含山軒･蘭亭	名勝	国指定	旧長浜	元浜町
6	大通寺台所門･表門･庫裏など	建造物	市指定	旧長浜	元浜町
7	妙法寺	建造物	未指定	旧長浜	大宮町
8	豊国神社	建造物	未指定	旧長浜	南呉服町
9	知善院	建造物	未指定	旧長浜	元浜町
10	長浜八幡宮放生池	名勝	市指定	旧長浜	宮前町
11	長浜八幡宮　旧汲月亭庭園	名勝	未指定	旧長浜	宮前町
12	慶雲館	名勝建造物	国指定 未指定	旧長浜	港町ほか
13	長浜城下町300石境界石柱	有形民俗	未指定	旧長浜	朝日町ほか
14	黒壁ガラス館本館 （旧第百三十銀行長浜支店）	建造物	国登録	旧長浜	元浜町
15	湖北観光情報センター「四居家」	建造物	国登録	旧長浜	元浜町
16	北国街道稲荷町･十一町付近の町並	伝統的建造物群	未指定	旧長浜	朝日町
17	市街地の水路（背割水路）	史跡	未指定	旧長浜	朝日町
18	船板塀	史跡	未指定	旧長浜	朝日町
19	ウラクロ（西御堂前町･伊部町）の町並	伝統的建造物群	未指定	旧長浜	元浜町
20	舎那院護摩堂	建造物	県指定	旧長浜	宮前町

エリア①　長浜城と城下町遺構　主な構成文化財分布

エリア②　奥びわ湖の観音文化と村々の祈り

長浜市の北部、奥びわ湖（旧伊香郡）と呼ばれる地域には、多くの観音像や薬師像・大日像が村堂に祀られている。村々ではこのホトケたちを「氏仏」と呼び、「氏神」とともに神仏混淆の中で信仰してきた。村人の祈りの対象となり、その生活の中に溶け込んだホトケたちは、その美術的価値を超えて、訪れる者に日本の原風景と深い信仰心を感じさせる。

平安時代以降、比叡山・天台宗の影響下、己高山を中心に栄えた湖北の寺々は、室町期頃には弱体化し、かわって浄土宗・曹洞宗・浄土真宗・時宗らのいわゆる新仏教が民衆の台頭に併せて勢力を伸ばし、戦国の動乱期にいたって、さらに大きく拡大した。

村々にあった天台寺院の多くは衰退して無住・廃寺化し、そこに残された仏像たちは、村の守り本尊として民衆に迎えられていった。

仏像の多くは、神社と並んだ小堂にひっそりと安置され、そこに住む住民たちによって、代々手厚く守られてきた。制作年代の新旧や指定の有無、造形的な巧拙、損傷の有無等といった文化財的な価値観を越えて、それぞれの自治会では、自分たちの仏像をかけがえのない存在として、限りない愛情と誇りと親しみをもって手厚く守っている。つまり仏像を守ることが、地域の暮らしに根付き、地域の人々の生き方や暮らし方、風土と分かちがたいところが、奥びわ湖の観音信仰・諸仏信仰の大きな特色でもある。そのホトケを守る心が、地域住民の絆をより強く結んできた歴史も大切にしたい。

かつて己高山にあった仏像・仏画類を収めている鶏足寺には、奈良時代８世紀に造られた、己高山のシンボルともいうべき量感豊かな薬師如来像や、木心乾漆造による十二神将３躯など多くの仏像が伝えられている。また向源寺（渡岸寺観音堂）には、平安前期に造られた、わが国を代表する国宝十一面観音立像や、平安後期の半丈六の大日如来坐像などが伝わり、これらは戦国時代、村人たちに土中に埋められて戦火から守られたと伝えている。さらに唐川日吉神社（赤後寺）には、平安初期の千手観音像と平安中期の聖観音像の２躯の等身像が伝えられている。この両像は、やはり戦禍を免れるため、村を流れる赤川に沈めて守られたと伝える。このほか、各集落にはさまざまな仏像が伝わり、今なお身近な地域の人々から親しまれ、戦時において上記のように守られた伝承を持つ。これらのホトケたちは、現在に至るまで住民の誇り、信仰心によって手厚く祀られている。

聖観音立像
（北門前観音堂旧蔵）

なお、村々における観音信仰は、奥びわ湖（旧伊香郡）以外の市域中部（旧浅井郡）、南部（旧坂田郡）にもみられるが、本エリアと関連づけて振興を図る。

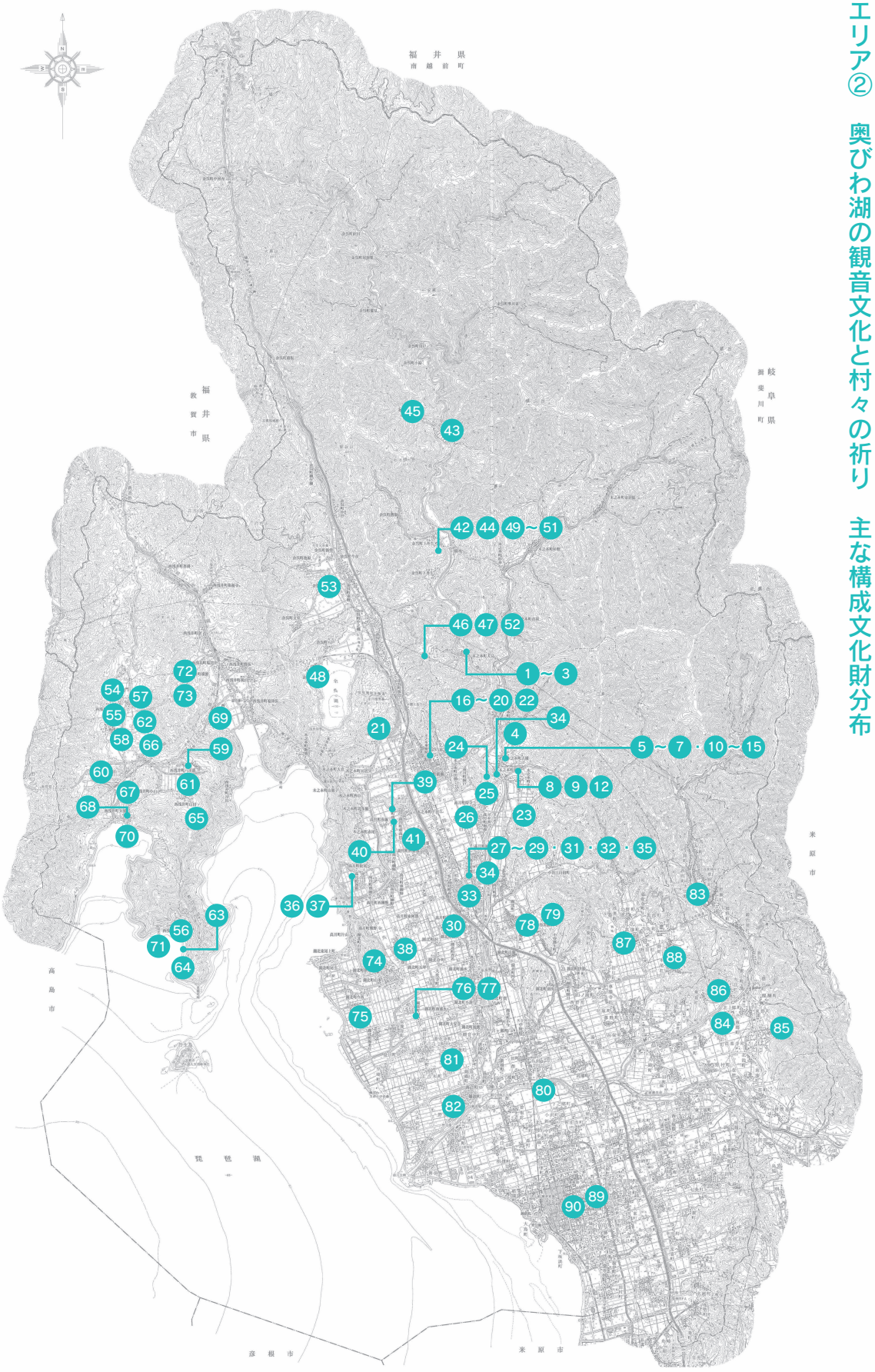
■エリア②　奥びわ湖の観音文化と村々の祈り　主な構成文化財一覧

番号	文化財名	類型	指定	地域	所在地
1	木造素盞嗚命坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町大見
2	木造女神坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町大見
3	木造十一面観音立像（医王寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町大見
4	木造御神像（佐波加刀神社蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町川合
5	木造十一面観音立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町古橋
6	木造薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町古橋
7	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町古橋
8	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町石道
9	木造持国天立像 木造多聞天立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町石道
10	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	高時	木之本町古橋
11	木造七仏薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	高時	木之本町古橋
12	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	県指定	高時	木之本町石道
13	木造菩薩形立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	高時	木之本町古橋
14	木造十所権現像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	高時	木之本町古橋
15	木造十二神将像（鶏足寺蔵）	彫刻	市指定	高時	木之本町古橋
16	木造地蔵菩薩立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
17	木造閻魔王立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
18	木造倶生神立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
19	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
20	木造阿弥陀如来坐像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
21	木造伝千手観音立像（観音寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町黒田
22	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町木之本
23	木造伝教大師坐像（高野神社蔵）	彫刻	国指定	富永	高月町高野
24	木造釈迦如来坐像（白山神社蔵）	彫刻	国指定	富永	高月町尾山
25	木造大日如来坐像（立法寺蔵）	彫刻	市指定	富永	高月町尾山
26	木造日吉山王二十一社本地仏像（日吉神社蔵）	彫刻	市指定	富永	高月町井口
27	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	国宝	高月	高月町渡岸寺
28	木造大日如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町渡岸寺
29	木造阿弥陀如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
30	木造神像（春日神社蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町宇根

番号	文化財名	類型	指定	地域	所在地
31	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
32	木造金剛力士立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
33	木造十一面千手観世音立像（大円寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町高月
34	木造薬師如来立像（八幡神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町柏原
35	木造獅子・象（文殊・普賢菩薩台座）（向源寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町渡岸寺
36	木造伝薬師如来立像（充満寺蔵）	彫刻	国指定	古保利	高月町西野
37	木造十一面観音立像（充満寺蔵）	彫刻	国指定	古保利	高月町西野
38	木造宝冠阿弥陀如来坐像（竹蓮寺蔵）	彫刻	市指定	古保利	高月町西阿閉
39	木造千手観音立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	七郷	高月町唐川
40	木造菩薩立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	七郷	高月町唐川
41	木造馬頭観音立像（横山神社蔵）	彫刻	市指定	七郷	高月町横山
42	木造薬師如来立像（源昌寺蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町上丹生
43	木造観音菩薩立像（洞寿院蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町菅並
44	木造薬師如来坐像（源昌寺蔵）	彫刻	県指定	余呉	余呉町上丹生
45	大日如来坐像（洞寿院蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町菅並
46	狛犬（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
47	十一面観音立像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
48	天部形立像（川並自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町川並
49	日光・月光菩薩立像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
50	木造聖観音坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
51	木造僧形坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
52	不動明王坐像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
53	十一面観音菩薩立像（国安自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町国安
54	木造仏頭（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
55	木造十一面観音立像（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
56	木造阿弥陀如来立像　行快作 附　像内納入品（阿弥陀寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
57	木造馬頭観音坐像（山門自治会蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町山門
58	木造馬頭観音立像（徳円寺蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町庄
59	如来形坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
60	阿弥陀如来坐像（黒山自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町黒山

番号	文化財名	類型	指定	地域	所在地
61	阿弥陀如来坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
62	男神立像（山門鳥居堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
63	阿弥陀如来坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
64	聖観音坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
65	薬師如来坐像及び脇侍蔵（増光寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山田
66	阿弥陀如来坐像（山門自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
67	大日如来坐像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
68	阿弥陀如来立像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
69	大日如来坐像（蓮通寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町岩熊
70	阿弥陀如来坐像（大浦観音堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
71	阿弥陀如来立像（祇樹院蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
72	毘沙門天立像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
73	薬師如来坐像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
74	木造聖観音立像（常楽寺蔵）	彫刻	市指定	朝日	湖北町山本
75	木造如来形仏頭（延勝寺自治会蔵）	彫刻	市指定	朝日	湖北町延勝寺
76	木造十一面観音立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	朝日	湖北町田中
77	木造菩薩形立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	朝日	湖北町田中
78	金銅半跏思惟像（小谷寺蔵）	彫刻	市指定	小谷	湖北町伊部
79	木造十一面観音坐像（岡本神社蔵）	彫刻	市指定	小谷	小谷丁野町
80	木造聖観音坐像（大井町自治会蔵）	彫刻	市指定	虎姫	大井町
81	木造聖観音立像（来現寺蔵）	彫刻	国指定	びわ	弓削町
82	木造菩薩坐像（新居神社蔵）	彫刻	市指定	びわ	新居町
83	木造大日如来坐像（光信寺蔵）	彫刻	国指定	上草野	太田町
84	聖観音立像（南郷町蔵）	彫刻	市指定	下草野	南郷町
85	木造阿弥陀如来立像（小野寺町蔵）	彫刻	市指定	下草野	小野寺町
86	木造不動明王坐像（大聖寺不動堂蔵）	彫刻	市指定	下草野	大門町
87	木造薬師如来坐像（珀清寺蔵）	彫刻	市指定	田根	瓜生町
88	木造薬師如来坐像（大田寺蔵）	彫刻	市指定	田根	木尾町
89	石造薬師如来（八幡東町）	工芸	市指定	六荘	八幡東町
90	木造聖観音菩薩立像（元北門前観音堂蔵）	彫刻	市指定	旧長浜	八幡東町

エリア②　奥びわ湖の観音文化と村々の祈り　主な構成文化財分布



エリア③　賤ヶ岳城砦群と古戦場

余呉湖の周辺に点在する賤ヶ岳古戦場は、羽柴秀吉と柴田勝家が織田信長の後継者争いのために戦った場所である。余呉湖畔の七本槍の激闘地や毛受兄弟の墓など平地の史跡もあるが、このエリアの最大の魅力は、両軍合わせて20か所以上の城砦が、今も良好な形で遺構をとどめていることである。一時期に築造された城砦は、城郭研究上も貴重だが、戦国時代を臨場感をもって体感できる場所でもある。

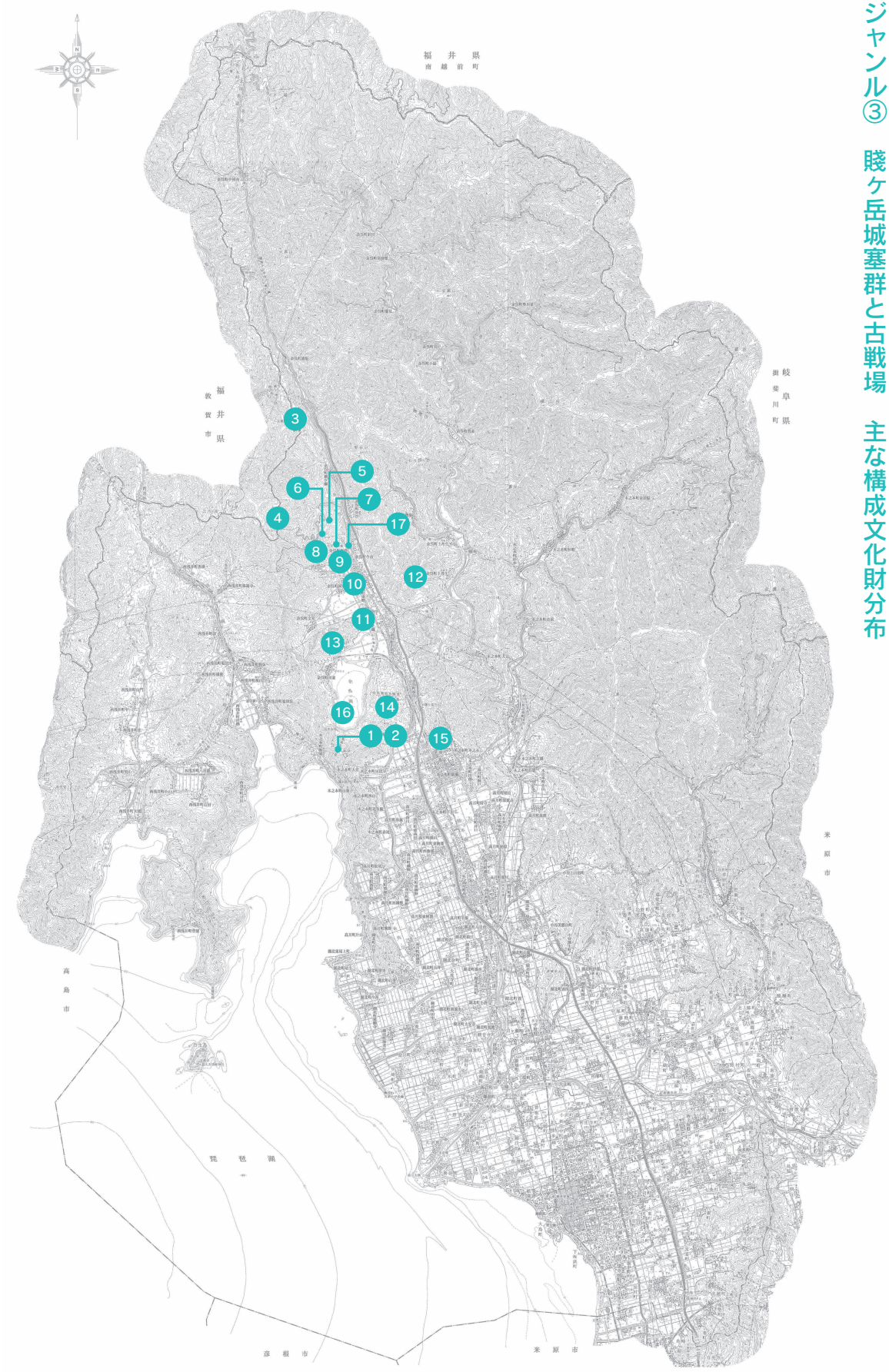
天正10年（1582）の「本能寺の変」により織田信長が没したことに端を発し、天正11年（1583）に旧織田家臣団を二分する羽柴秀吉と柴田勝家が戦った賤ヶ岳合戦が起きた。両軍は伊香郡木之本宿の秀吉本陣から、同郡柳ヶ瀬集落北の勝家本陣の玄蕃尾城（内中尾山城）まで、南北10キロ以上にわたり、大規模なものだけでも20か所ほどの陣城を設けて対峙した。

秀吉軍は余呉湖の南側から、田上山城までに陣を構え、勝家側は余呉湖の北側の行市山砦から玄蕃尾城へ至るまで陣を構えた。これらは、賤ヶ岳城砦群と呼ばれ、一時期に築城された織豊期城郭として、学術的にも非常に貴重な遺跡群である。

また、余呉湖周辺には秀吉側の七本槍の活躍の跡地、さらに北には柴田側の毛受兄弟の墓など、合戦に関わる史跡が多く点在する。合戦の結果は、秀吉軍が勝利し、天下統一へ向けて歩みを進めることとなった。

大岩山砦跡（中川清秀墓）

■ジャンル③　賤ヶ岳城塞群と古戦場　主な構成文化財一覧

番号	文化財名	類型	指定	地域	所在地
1	賤ヶ岳城古戦場跡	史跡	未指定	伊香具・余呉	木之本町大音など
2	賤ヶ岳城跡	史跡	未指定	伊香具	木之本町大音
3	玄蕃尾城跡（内中尾山城）	史跡	国指定	余呉	余呉町柳ヶ瀬
4	行市山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町池原
5	大谷山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町小谷
6	柏谷山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町小谷
7	中谷山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町池原
8	別所山砦跡	史跡	市指定	余呉	余呉町池原
9	山寺山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町池原
10	天神山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町国安
11	堂木山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町中之郷
12	東野山城跡	史跡	市指定	余呉	余呉町東野
13	神明山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町八戸
14	大岩山砦跡	史跡	未指定	余呉	余呉町坂口
15	田上山城跡	史跡	未指定	伊香具	木之本町黒田
16	賤ヶ岳七本槍戦功の地	史跡	未指定	余呉	余呉町川並
17	毛受兄弟の墓	史跡	未指定	余呉	余呉町新堂

ジャンル③　賤ヶ岳城塞群と古戦場　主な構成文化財分布